

第5回鳥取市スケートリンク検討委員会 会議概要録

平成25年9月24日（火）午後5時30分～7時30分
市役所本庁舎6階全員協議会室

出席：委員：岩本委員、大谷委員、川口委員、木嶋委員、小山委員
高井委員、林田委員、藤野委員、本名委員（50音順）
教育委員会：浅井課長、坂本係長、西田主幹、中島主事

1 開会

事務局：ただ今から、第5回鳥取市スケートリンク検討委員会を開会いたします。本日は、全員出席ですので、委員会が成立していることを報告します。

開会に当たり本名委員長より挨拶をお願いします。

2 あいさつ

委員長：皆さん、こんにちは。先日は、鳥取砂丘に行きまして、暑かったです。鳥取砂丘は、市民の方は、意外と小学校のとき行ったけどそれから行っていないという方が多く、全体から見ると宝物ですが、宝物になるところまでまだまだいっていない。鳥取の宝物をどんどん育てていきたいが、このスケートリンクについてもいろいろとご検討いただいて、できれば鳥取の宝物になれば一番いいと考えています。お金のかかることですので、厳正に検討していただいて最終的にまとめに入りたい。今日は、時間外ですが、ご意見をたくさん賜りますようよろしくお願いします。

事務局：では、これより以降の議事進行は、設置要綱により、委員長が議長を務めることとしておりますので、よろしくお願いします。

3 説明事項

(1) 太陽光発電システムについて

※事務局が資料により説明

《質疑応答》

委員長：太陽光発電システムの25年度価格は決まっているものであり、来年度についてはまた別に検討がなされるので、価格が多少変わってくる可能性がある。

事務局：そうです。

川口委員：単価は建設費の絡みで決まってくるのか。だんだん単価が下がってきているということは、コストがそれだけ安くなるという考え方で国が決めるのか。

事務局：調達価格等の算定委員会の答申の内容をファイルの方に落としているが、平成25年度の方が3月11日に答申がされている。平成24年度の価格が高かったということで、平成25年度分については、下落分についてヒアリングで確認をして算定したというのが大きな方針です。

川口委員：スケートリンクの発電を自己消費するという考え方はどうなのか。

事務局：現時点では、自己消費をするより売電した方が得です。

木嶋委員：基本的には、コストがベースになっているのか。

事務局：そうです。

事務局：それと、前回の会議でも、岩本委員さんから意見があったが、実際に中国電力が契約を結んでくれるかどうかもうひとつのハードルです。その点について、中国電力さまに確認をとったが、今回採用しようとしている250kwhの出力は、頭ごなしにダメということはないが、近隣

の電力需要より供給の方が大きすぎる場合については、そのまま流すと周りの電圧を下げってしまうといったような悪影響が出てくるので、電圧を調整する対策工事が必要となる。工事は、中国電力さまが行ってくれるが、工事にかかる費用については売電側が負担する。いくら工事費用がかかるのか、調査費用は20万円ぐらいかかる。いずれにしても候補となる土地を何箇所か挙げて、簡易調査を行ったらどうかというアドバイスを受けている。

木嶋委員：今、実際に体育館の屋根貸しははじまっているのか。

事務局：鳥取市としてはスタートしている。

木嶋委員：スケートリンクを立てるところの近くにそういった施設があるとまずいのか。

事務局：一概に全部ダメではないが、簡易調査で判断する。

委員長：おおよそペイするまでに15年くらいかかる。不確定要素も多く、読み切れない部分もあるが、環境にやさしいということであれば太陽光も取り入れたい。

(2) スケートリンクに関する調査について

※事務局が資料により説明

〈質疑応答〉

岩本委員：アンケートのスケート連盟の回収率が低いのは、連盟はスケート教室などしかしないため。連盟傘下のクラブの意見がないということは残念。連盟として意欲がないわけではないが、底辺まで手がいっていないのが現状。鳥取はどんどん選手層が減っていくのが現状。

委員長：カーリング協会の回収率が100%とあるが、これについては。

岩本委員：カーリング協会は新しく、本部の方から力を入れている。カーリングをできるリンクが少なく、中国地方には、岡山、浜田のリンクぐらいしかない。

委員長：カーリングは、生涯スポーツとして魅力的。

木嶋委員：アンケートをみると、カーリングの人の思いが強い。鳥取市に仮にカーリングシートが2レーンできると西のメッカになるのでは。それと、連盟傘下の団体は横のつながりが大きく、横のつながりで遠征先が決まっている。鳥取に先進的な指導者がいればあらたに鳥取で遠征をしてくれるのでは。

岩本委員：この前、岡山で遠征を行ったが、宿泊を伴うのでホテルの取り合いになっている。

川口委員：アンケートをみると、遠征、合宿の希望月について夏が圧倒的に多い。他の県では夏場にリンクが使えないことが多いので、鳥取県は通年型にすれば活用できるのでは。

委員長：同じものを作ってはだめ。遠くても来たいという魅力を作らないといけない。一つは質の高い指導。また、ソフト面などのメリットが必要。

木嶋委員：アンケートの中で、ジャンプができるリンクを作ってほしいとあるが、これについては。

岩本委員：指導者がいないと危険で、ジャンプなどができないということ。選手はできないと不安がるが、できないリンクもある。

林田委員：あくまでもこれは一般営業時間のこと。インストラクターが判断して許可を出す。

川口委員：施設上の問題ではないということではよろしいか。

林田委員：それでよい。一般のスケーターが、ジャンプしている人を見て滑走を中断するのは営業サイドからはよくない。

川口委員：アンケートの考察が出ているが、状況だけの考察になっているので、今、我々が考えているスケートリンクとリンクした考察をするとよい。

事務局：考察はあくまで速報。どういったまとめにするかは、委員会の中でご意見をいただいて最終的なまとめにもっていきたい。

高井委員：問11(1時間当たりの施設貸切使用料金)について、マーケティングの観点から団体別のクロス集計を行っていただきたい。

林田委員：学生はやはり費用を考える。交通費もネック。

川口委員：実体のない鳥取市のスケートリンクに25もの団体が、条件付きあるだろうが、行ってもいいと回答したことは積極的に評価してもよい。

事務局：事務局としてもそろそろ報告書をまとめたいと考えているので、今回いただいた中でカーリングなど新たなことが出てきたが、どうしても建設費用に跳ね返ってくることなので、報告書の中では、カーリングを対象にしながらサブリンクといったものは無しとして、運用面の扱いということで報告書を取りあえずまとめさせていただく。利用率については、前回、高井委員がおっしゃったように1%、3%といった段階的なもので試算したものを報告案として出さしていただき、ご意見を伺いたい。合わせて、今回のアンケート等も含めて、利用料の方も他の施設も参考にさせていただきながら、次回提示していきたい。

大谷委員：スケートリンクの必要性について、スポーツ振興など市民の理解を得ることが必要。連盟の団体の意見等も踏まえて、シビアに報告書を作っていかないと考えている。

川口委員：この問題は、鳥取市だけの問題ではない。県も関わってくる。県としても、必要としている、必要とされている施設である。鳥取市が主体的に行っていくにしても、県がどの程度まで関わるかは、次の段階で出てくる。そのことも踏まえて委員会としてまとめていく。

公共施設なのでペイ出来ればそれに越したことはないが、スポーツ振興とのバランスが必要。

委員長：今回弓道場もできたわけだが、弓道場がペイするかというとそうではない。けれども、教育面でも必要だということで新設された。

木嶋委員：小中学生に対して、スケート等への関心についてのアンケートはできないのか。

小山委員：スケートに特化したアンケートは難しい。鳥取市の校長会などに出して判断していくもの。

委員長：スポーツ全般の調査というのはあるのか。

小山委員：県が生涯スポーツ調査という形で行っている。

木嶋委員：次回、もしよければ鳥取市の合宿できる施設の許容できる人数の算出を行っていただきたい。

委員長：次回は周辺施設を調べていただきたい。

岩本委員：報告書についてだが、以前、平成16年頃に連盟が請願を行ったとき市議会議員の方は、理解を示された。県の議員の方も理解を示されていた。

(3) 先進地視察について

※事務局が資料により説明

《質疑応答》

事務局：ひょうご西宮アイスアリーナ視察は10月25日でよろしいか。

(異議なし)

4 その他

(特になし)

5 閉会

委員長：本日はこれで終わります。ありがとうございました。